

*この科目は実務経験のある教員による授業科目です。

科目区分	専門分野 I	科目名	フィジカルアセスメント		
開講時間	1年次	単位・時間	1単位・30時間	講師名	五十嵐 ユミ子
学習目標	1. 系統的な観察、問診、視診、聴診、打診により対象の健康状態を把握し評価する技術を習得する。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	フィジカルアセスメントに共通する技術① 1) 問診 2) 視診			講義
	2	フィジカルアセスメントに共通する技術② 3) 触診 4) 打診 5) 聴診 *身体計測			講義
	3	バイタルサインの測定① 1) バイタルサインとは 2) 体温測定 3) 呼吸測定			講義
	4	バイタルサインの測定② 4) 脈拍測定 5) 血圧測定 6) 意識状態 7) 記録と報告			講義
	5	バイタルサインの測定③ 血圧測定の方法			講義
	6	バイタルサインの測定④ 血圧測定の実際			演習
	7	バイタルサインの測定⑤ バイタルサインの測定の実際			演習
	8	系統別フィジカルアセスメント① 呼吸器系			講義
	9	系統別フィジカルアセスメント② 循環器系			講義
	10	系統別フィジカルアセスメント③ 消化器系・腹部			講義
	11	系統別 フィジカルアセスメントの方法			演習
	12	系統別フィジカルアセスメント④ 頭部・感覚器系・脳・神経系			講義
	13	系統別フィジカルアセスメント⑤ 運動器系・乳房・腋窩			講義
	14	状況に合わせたバイタルサインの測定			演習
15	技術チェック (45分) 筆記試験 (45分)				
評価方法	筆記試験				
テキスト	横山美樹：はじめてのフィジカルアセスメント《メヂカルフレンド社》 系統看護学講座 基礎看護技術 I 《医学書院》基礎・臨床看護技術				
参考文献					
自己学習時間	15時間	事前・事後学習	バイタルサインの測定の技術の習得		

*この科目は実務経験のある教員による授業科目です。

科目区分	専門分野 I	科目名	診療に伴う技術 I		
開講時間	1年次	単位・時間	1単位・30時間	講師名	池田みどり
学習目標	1. 診療と検査の意義、目的を理解し診察検査を受ける患者への看護技術を習得する。 2. 処置が必要な人への基礎的な看護技術を習得する。 3. 静脈血採血の基本技術を習得する。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	1. 診察を受ける人への看護 1) 診察の目的と種類 2) 診察時の援助 2. 検査を受ける人の看護 1) 検査の意義 2) 検査における看護師の役割 3) 検査の種類と実施時の注意点			講義
	2・3・4	3. 主な検査の方法と看護師の役割 1) 生体検査と援助方法 2) 検体検査と援助方法			講義 グループワーク
	5	4. 静脈血採血 1) 静脈血採血の目的と採血部位 2) 採血実施時の留意事項			講義 演習
	6・7	3) シリンジによる採血の方法と実際 4) 真空管採血による採血の方法と実際			演習
	8	5. 検体検査の実際 1) 検査科での生体検査・検体検査の実際			検査科 (検査の見学)
	9	6. 穿刺時の看護 (腰椎穿刺・胸腔穿刺・ 腹腔穿刺・骨髄穿刺)			講義
	10	7. 洗浄時の看護 (胃洗浄・膀胱洗浄)			講義
	11・12	9. 呼吸を整える技術 1) 吸入 2) 一時的吸引 3) 排痰法			講義 演習
	13・14	4) 援助の実際 (酸素吸入・一時的吸引)			演習
	15	技術チェック：採血 (45分) 筆記試験 (45分)			技術チェック 試験
	評価方法	1. 筆記試験 90% 2. 事前課題 10%			
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ 《医学書院》 学ぶ・試す・調べる 看護ケアの根拠と技術 《医歯薬出版》 基礎・臨床看護技術 《医学書院》 検査値早わかりガイド 《サイオ出版》				
参考文献	看護技術 講義演習ノート下巻 診療に伴う看護技術 《医学芸術社》 看護技術がみえる? 《メディックメディア》				
自己学習時間	15時間	事前・事後学習	課題が提示された場合は、事前に調べ期限内に提出する テキストの関連部分を予習する 前回の講義資料を復習する 技術は練習し技術習得を目指す		

*この科目は実務経験のある教員による授業科目です。

科目区分	専門分野 I		科目名	診療に伴う技術 II		
開講時間	1年次	単位・時間	1単位・30時間	講師名	鈴木 幸恵	
学習目標	1. 与薬の意義・目的を理解する。 2. 与薬を受ける患者への基本的な看護技術を習得する。 3. 輸液・輸血等の基礎的な技術を習得する。					
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態	
	1	1. 薬物療法の意義と基礎知識、看護師の役割			講義	
	2	2. 与薬の種類と投与経路・薬物動態・法律など 3. 経口与薬法（経口与薬・口腔内与薬）			講義	
	3	4. 看護師による与薬の実際			演習	
	4	5. 外用薬の与薬法 （直腸内、点眼、点耳、点鼻、吸入、経皮）			講義	
	5	6. 注射による与薬法Ⅰ（注射に関する基礎知識）			講義	
	6	7. 注射による与薬法Ⅱ （筋肉内注射、皮下注射、皮内注射）			講義	
	7	8. 筋肉内注射技術①（薬液の吸い上げ）			演習	
	8	筋肉内注射技術②（吸い上げ・筋肉内注射）			演習	
	9	9. 注射による与薬法Ⅲ（静脈内注射、中心静脈）			講義	
	10	10. 点滴静脈内注射の実際①（プライミング）			演習	
	11	点滴静脈内注射の実際②（滴下調整等）			演習	
	12	11. 輸液ポンプ・シリンジポンプ（操作・安全管理）			講義	
	13	12. 輸液・シリンジポンプの取り扱いの実際			演習	
	14	13. 輸血療法と看護（輸血管理の実際とその看護）			講義	
15	技術チェック（45分） 筆記試験（45分）					
評価方法	筆記試験 100%					
テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 《医学書院》 学ぶ・試す・調べる 看護ケアの根拠と技術 《医歯薬出版株式会社》 根拠と事故防止から見た 基礎・臨床看護技術 《医学書院》					
参考文献	写真でわかる臨床看護技術① 《インターメディカ》 写真でわかる輸血の看護技術 《インターメディカ》 看護がみえるVol.① ②基礎看護技術 MEDIC MEDIA					
自己学習時間	15時間	事前・事後学習	講義・演習問わず、事前にテキストを読み込む ノートや配布された講義資料を復習する 技術は演習時間以外にも自己学習時間に復習する			

*この科目は実務経験のある教員による授業科目です。

科目区分	専門分野Ⅱ	科目名	成人看護学演習			
開講時間	2年次	単位・時間	1単位・30時間	講師名	田中 留美子	
学習目標	1. 成人期を踏まえた看護過程展開の方法を理解する 2. 成人期の対象に対する基本的な看護技術を習得する					
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態	
	1	成人期にある慢性期の患者の看護過程① 1) 事例(慢性疾患)を展開するのに必要となる知識・理論			講義	
	2	成人期にある慢性期の患者の看護過程② 2) アセスメント 3) 看護診断(看護問題の明確化)			講義	
	3・4	成人期にある慢性期の患者の看護過程③④ 4) 看護診断の確定 5) 優先順位の決定 6) 看護計画 7) 実施と評価			講義	
	5	成人期にある急性期・回復期の看護過程① 1) 事例(周手術期)を展開するのに必要となる知識・理論			講義	
	6・7	成人期にある急性期・回復期の看護過程②③ 2) アセスメント 3) 看護診断(看護問題の明確化)			講義	
	8・9	成人期にある急性期・回復期の看護過程④⑤ 4) 看護診断の確定 5) 優先順位の決定			講義	
	10	成人期にある急性期・回復期の看護過程⑥ 6) 看護計画 7) 実施と評価			講義	
	11	成人期にある急性期・回復期の看護過程⑦ ・胃切徐後の観察 ・合併症の早期発見			演習	
	12	成人期にある急性期・回復期の看護過程⑧ ・早期離床への援助(術後1日目の安全な起立・歩行)			演習	
	13	成人期にある急性期・回復期の看護過程⑨ ・胃切徐後の初回飲水 ・食事開始時の指導			演習	
	14	成人期にある終末期の看護過程① ・緩和ケア・スピリチュアルケアを中心に			講義	
	15	まとめ・筆記試験				
	評価方法	筆記試験				
	テキスト	慢性期看護・急性期看護Ⅰ・緩和ケア <<南江堂>> 看護診断ハンドブック11版系 系統看護学講座 臨床薬理学 <<医学書院>>				
参考文献	ヘンダーソン・ゴードンの考え方に基づく実践看護アセスメント <<ヌーベルヒロカワ>>					
自己学習時間	15時間	事前・事後学習	授業前に該当箇所の看護過程を演習記録に記載して臨む			

*この科目は実務経験のある教員による授業科目です。

科目区分	専門分野Ⅱ	科目名	小児看護学演習		
開講時間	2年次	単位・時間	1単位・30時間	講師名	石橋 さやか
学習目標	1. 小児期の事例を通して、特徴を踏まえた看護過程が展開できる。 2. 小児に対する基本的な援助技術を習得できる。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	1. 小児看護の対象と特徴 2. コミュニケーション 3. プレバレーション			講義
	2	4. 小児看護に特有な基本的技術と看護			講義
	3	5. 小児看護に特有な基本的技術と看護			講義 演習
	4	6. プレバレーションを取り入れた看護技術の実際 1) 事例の模擬患児を対象とした看護技術			演習
	5	7. 小児に特有な紙上事例に基づいた看護過程の展開 1) 事例：川崎病・熱性けいれん・気管支喘息など1事例			講義
	6	2) アセスメント			講義
	7	3) 全体像 4) 看護診断			演習
	8	5) 看護計画			演習
	9	8. 小児のフィジカルアセスメント 1) 援助の実際			演習
	10	9. 小児に特有な紙上事例に基づいた看護過程の展開 1) 事例：重症心身障害児 2) アセスメント 3) 全体像			講義 演習
	11	4) 看護診断 5) 看護計画			講義 演習
	12	10. 健康な小児への健康教育 1) 体のしくみ 2) 子どもの生活に結び付けたプログラムを企画			講義 演習
	13	3) 健康教育を考える			演習
	14	4) 発表 5) まとめ			演習
15	まとめ (45分) 筆記試験 (45分)				
評価方法	筆記試験50% 提出物50%				
テキスト	新体系看護学全書 小児看護学①小児看護学概論 小児保健<メヂカルフレンド社> 新体系看護学全書 小児看護学②健康障害をもつ小児の看護<メヂカルフレンド社>				
参考文献	発達段階を考えたアセスメントに基づく小児看護過程<医歯薬出版株式会社> 看護診断ハンドブック<医学書院> 根拠と事故防止からみた 小児看護技術<医学書院> 発達段階からみた 小児看護過程<医学書院> 病気の子どもへのプレバレーション<中央法規> 写真でわかる 小児看護技術<インターメディカ> 聖路加看護大学からだ教育研究会 わたしのからだ				
自己学習時間	15時間	事前・事後学習	各期の成長・発達段階を復習する 各期の解剖生理的特徴を復習する		

*この科目は実務経験のある教員による授業科目です。

科目区分	専門分野Ⅱ	科目名	母性看護学概論		
開講時間	2年次	単位・時間	1単位・30時間	講師名	加藤 幸代
学習目標	1. 人間の性と生殖過程及びその過程における健康及び権利について理解する。 2. 母性看護の概念を理解する。 3. 母性看護の理念と法律について理解する。 4. 女性のライフサイクル各期における看護について理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	1. 母性看護の基盤となる概念 1) 母性の概念と定義 2) 母性看護の意義と役割			講義
	2	3) セクシュアリティ 4) プロダクティブヘルツ/ライツ 5) ヘルスプロモーション			講義
	3・4	6) 母性看護のあり方 7) 母性看護における生命倫理			講義
	5・6	2. 母性看護の対象と理解 1) 女性のライフサイクルにおける形態機能の変化			講義
	7	2) 女性のライフサイクルと家族 3) 母性の発達・成熟・継承 *ジェンダーを含			講義
	8	3. 母性看護を取り巻く社会の変遷と現状 1) 母性看護の歴史的変遷と現状 *保健統計と関連法規含			講義
	9	2) 母性看護の対象を取り巻く看護			講義
	10	4. 母性のライフステージ各期における看護 1) 女性の健康と看護の必要性 2) 思春期の健康と看護			講義
	11	3) 成熟期の健康と看護			講義
	12	4) 更年期の健康と看護 5) 老年期の健康と看護			講義
	13	5. リプロダクティブヘルスケア 1) 家族計画 2) 性感染症と予防			講義
	14	3) 人工妊娠中絶と看護 4) 喫煙女性の健康と看護 5) DVを受けた女性の看護			講義
	15	終講試験			
	評価方法	筆記試験 100%			
テキスト	系統看護学講座 母性看護学概論《医学書院》				
参考文献	国民衛生の動向《厚生統計協会》 新体系看護学全書 母性看護学概論/ウイメンズヘルスと看護《メジカルフレンド社》 ナーシング・グラフィカ 母性看護学Ⅰ概論・リプロダクティブヘルスと看護 《メディカ出版》				
自己学習時間	15時間	事前・事後学習	前回の講義資料を復習する テキストの関連部位を読む 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		

*この科目は実務経験のある教員による授業科目です。

科目区分	専門分野Ⅱ	科目名	母性看護学演習		
開講時間	2年次	単位・時間	1単位・30時間	講師名	加藤 幸代
学習目標	1. 正常に経過する褥婦と新生児の看護過程の展開ができる。 2. 具体的な指導方法を理解する。 3. 母性看護に必要な援助技術の習得ができる。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1・2	1. ヘルスプロモーション型看護診断に基づいた看護過程の展開 1) 事例紹介(褥婦と新生児) 2) 看護過程展開に必要な知識(アセスメントの視点)			講義
	3	3) 褥婦のアセスメント			講義 グループワーク
	4	4) 新生児のアセスメント			
	5	5) 全体像 6) 看護診断と目標			
	6	7) 看護計画立案のポイント「観察」「援助」「保健指導」			
	7	8) 看護計画からの実施・評価			演習
	8	2. 妊産褥婦および新生児に必要な看護技術 1) 妊婦：①子宮底長と腹囲測定 ②レオポルド触診法			
	9・10	2) 産婦：分娩進行に伴う援助技術			
	11	3) 褥婦：①子宮復古の観察・促進 ②産褥体操 ③乳房ケア			
	12	4) 新生児：①全身の観察と計測 ②沐浴			演習
	13・14	3. 母性看護に必要な保健指導 1) マタニティサイクルにおける保健指導(事例より)			グループワーク 発表
	15	2) 思春期・更年期における保健指導(事例より) 筆記試験(20分)			グループワーク
	評価方法	筆記試験30% 課題(事例展開・技術演習)50% 模擬保健指導20%			
テキスト	系統看護学講座 母性看護学2 母性看護学各論《医学書院》 看護診断ハンドブック《医学書院》 写真でわかる母性看護技術 アドバイス《インターメディカ》				
参考文献	ウェルネス看護診断に基づく母性看護過程《医歯薬出版》 ウェルネスからみた母性看護過程《医学書院》 看護実践のための根拠がわかる母性看護技術《メヂカルフレンド社》 周産期ケアマニュアル《サイオ出版》				
自己学習時間	15時間	事前・事後学習	前回の講義資料を復習する テキストの関連部位を読む 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する 学習した技術の習得に向け練習する		

*この科目は実務経験のある教員による授業科目です。

科目区分	専門分野Ⅱ	科目名	精神看護学演習		
開講時間	2年次	単位・時間	1単位・30時間	講師名	鈴木 幸恵
学習目標	1. 精神に障害を持つ対象のアセスメント・看護診断・目標設定について理解する。 2. プロセスレコードの活用方法を身に付ける。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	1. 精神に障害のある対象の理解			講義 演習
	2	2. 看護過程展開【統合失調症】Ⅰ ①情報収集の方法 ②アセスメントの視点			講義 演習
	3	看護過程展開【統合失調症】Ⅱ ①事例紹介 ②アセスメントガイド			講義 演習
	4	看護過程展開【統合失調症】Ⅲ ①社会資源の活用 ②家族支援			講義 演習
	5	看護過程展開【統合失調症】Ⅳ ①患者参画型看護計画 ②患者主体型看護計画			講義 演習
	6	看護過程展開【統合失調症】Ⅴ ①全体像			演習
	7	看護過程展開【統合失調症】Ⅵ ①発表 ②まとめ			演習
	8	3. 効果的なコミュニケーション技術			講義 演習
	9	4. ロールプレイ			演習
	10	5. 対人関係理論（ペプロウの理論）			演習
	11	6. 症状に対する看護Ⅰ 希死念慮があるうつ病患者の看護			演習
	12	症状に対する看護Ⅱ 脅迫症状がある患者の看護			演習
	13	7. プロセスレコードⅠ プロセスレコードの分析方法			講義 演習
	14	プロセスレコードⅡ プロセスレコードの分析			演習
15	終講試験				
評価方法	看護過程展開50% 筆記試験50%				
テキスト	系統看護学講座 精神の展開《医学書院》 看護診断ハンドブック《医学書院》 ヘンダーソンゴードンの考え方に基づく実践看護アセスメント《ヌーヴェルヒロカワ》				
参考文献	全人的視点にもとづく精神看護過程《医歯薬出版株式会社》 はじめての精神科看護《メディカ出版》 精神看護 第2版 《照林社》 はじめてのヘンダーソンモデルに基づく精神科看護過程第2版《医歯薬出版株式会社》				
自己学習時間	15時間	事前・事後学習	既習したことを各自復習してから授業に臨む テキストで復習する グループワークは各自で学習してから臨む		

*この科目は実務経験のある教員による授業科目です。

科目区分	統合分野	科目名	在宅看護論演習		
開講時間	3年次	単位・時間	1単位・30時間	講師名	池田みどり
学習目標	1. 様々な事例から、状態に応じた看護を理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	1. 在宅における看護過程の展開 2. 演習オリエンテーション			講義
	2・3 4	3. 看護過程の展開 1) 事例の理解 2) 調べる 3) 情報の整理			講義 グループワーク
	5	4) アセスメント 看護診断の方向性まで抽出する			グループワーク
	6・7	5) 事例発表 意見交換・討論			演習
	8・9	6) 事例の見直し(追加修正) 7) 看護診断・看護計画			講義 グループワーク
	10・11	8) 訪問看護計画書(ロールプレイ)			講義 グループワーク
	12・13	9) 訪問看護計画に基づいた訪問の実際 ディスカッション・評価(訪問マナー)			演習
	14	10) 看護過程の事例発表 意見交換・討論			講義・演習
	15	まとめ 筆記試験(45分)			講義・試験
評価方法	筆記試験 50% 演習レポート50%				
テキスト	在宅看護論 《南江堂》 看護診断ハンドブック 第10版 《医学書院》				
参考文献	在宅看護論 《医学書院》 在宅看護論Ⅰ・Ⅱ 《日本看護協会出版》 地域医療を支えるケア・療養を支える技術 《メディカ出版》 在宅看護実習ガイド 《照林社》 在宅看護学 《医歯学出版株式会社》				
自己学習時間	15時間	事前・事後学習	在宅看護援助技術・看護を復習して講義に臨む 課題が提示された場合は、事前に調べ期限内に提出する		